

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English II		
英文授業科目名	Academic Spoken English II		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科 知能機械工学科 システム工学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
eigokyoumu@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>この授業科目の包括的目標は学修要覧に記されている。以下はそこから抜粋したもの。</p> <p>1．前学期に引き続き、様々な話し方を身につける 一方の主張を述べる（例：ある問題について賛成の立場から話す）。 相手に意見を求める。 双方の主張を述べる（例：賛否両論あるいは長所・短所を並列する）。</p> <p>2．前学期に引き続き、自主的に聞いたり話したりする態度を身につけ、話しことばとしての英語に自信をつける</p> <p>3．学習者一人ひとりが自己評価のスキルを身につける（例：英語を聞いたり話したりするうえで、得手・不得手が何かを分析する、学生自身が作成した教材の良し悪しを検討する、クラスメート同士の評価方法について学ぶ、どのような学習スタイルが適しているかを考える）。</p> <p>なお、このクラスではスピーキングよりもリスニングの方にやや重点を置く。 （このクラスは通年で授業内容を組み立てているので、後学期も継続して受講することが望ましい。前学期の結果を踏まえて、後学期はレベルをやや高めるだけでなく学習課題も修正を加えることがある。）</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
Academic Spoken English I

【教科書等】

Social Issues in a Contemporary World 「リスニングで学ぶ現代の社会事情」

杉森直樹ほか4名(成美堂)

序言に「リスニング演習用のテキストですが、多様なタスクが用意されていますので、四技能の総合的な演習用のテキストとしての利用も可能」とある(通年使用)。

<目次の例>

Gender, Population, Environmental Issues, Recycling, Energy Problems, Technology

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

英語を聴く力を高めるために、各章を1回の授業で主にテキストSection1の「対話」を聴いて要点をつかむ方法を考えながら練習問題を解き、同じ章をもう1回の授業で主にSection2の「説明文」を聴きながら同様の作業を行なう。また、英語を話す力をつけるために、練習問題をペアワークなどにより実際に話したり書いたりすることで解いていく。時間が余れば補足練習として他のCDを使うこともある。

(b) 授業の進め方：

1章6頁二部構成の内容を授業2回で扱うが、各Sectionの進め方はほぼ同じ。まず肩慣らし練習をしてから、ダイアログ(あるいはパッセージ)を前後2つに分けて各々に設けられたタスクをこなしたり、聴き取るポイントを見つける練習を行なう。その他のタスクとしては、音読や要約、英文を組み立てる練習などを予定している。

(c) 授業時間外の学習(予習・復習等)について

(予習) 付属CDを用いて授業で扱う英文を2回以上聴いておく。その際、テキストは見ないで音声だけから聴き取れた範囲で内容を推測をする。そして、複数回聴いたときに情報量の差違がどのくらいあるかを体験する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法 下記の(1)を中心とした総合的評価をする。

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をすることがある)。
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方・レポートの提出。
- (4) 臨時の小テストや、中間テストをする可能性もある。

評価基準

大学作成の以下の基準に基づく。

100~90点は秀、89~80点は優、79~70点は良、69~60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前に予約を取ること。

【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れるひとときを生活の中に組み込むことがポイント。
2. 実用的な音声英語の自習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧め。

【その他】